

くらき永田保育園便り



新年明けましておめでとうございます。お正月はご家族そろってゆっくりと過ごせましたか？ どんな初夢を見ましたか？ さて、コロナ禍で迎える3回目のお正月です。くらき永田保育園が大切にしている「体験とつながり」が100%出来る状態ではありませんが、「どのような状況下でも子どもたちにとって何が必要か」に立ち返りながら一年を過ごしていきます。今日から職員は仕事モード、子どもは遊びモード全開で過ごしたいと思います。

衛生面に配慮しながら“餅つき”実施します

コロナ感染のニュースはまだまだ収束はしていませんが、今年も、子どもたちの食の体験の大切さを保障するためにも1月18日に餅つきを実施したいと思います。お手伝いの保護者の皆さんには衛生面に関していろいろと協力をお願いすることが多くなりますがご了承ください。

YouTuber 2年目園長

2022年1月から保育士や子育て中の保護者向けに発信するYouTubeチャンネル『八朗遊び本舗』を始めて一年が経過しました。週一回ペース（毎週月曜日）で配信するのは正直しんどいと感じることもありますが、伝えたいことは不思議なくらい尽きません。そのくらい子育てや保育という営みは複雑で難しいということなのでしょう。また、保護者の皆さんからの感想や要望は僕にとっても貴重な気づきの機会にもなっていて、それを職員にフィードバックしたり、新たなネタ作りの参考にさせてもらっています。最近では若手の保育士に向けた内容が多く少々専門的な話も多いかもかもしれませんが、「今、大切だと思うこと」にこだわって発信を続けていきたいと思っています。

保育士による虐待事件から感じたこと

静岡県裾野市で起こった不適切な保育は子どもを持つ多くの保護者だけでなく保育関係者にも大きなショックを与える出来事でした。そして、報道にもあるようにこれは「氷山の一角だ」と感じている人もいないのでしょうか？くらき永田保育園では職員会議だけでなく様々な場面で「不適切な対応とは何か」また「不適切な対応が起きてしまう状況を保つためには何をすべきか」など何度も繰り返し話し合いの時間を費やしました。その対話の中で見えてきた事件の背景に何があったのかを考察したいと思います。少々長文になりますがお付き合いください。

まずは、日本の保育現場が抱える制度的な問題です。一人の保育者が担当する子どもの数が国際的にみて多いことが保育者の負担感や疲弊感を生みネガティブにかかわる一因になっていることがあると思います。一方、同じ条件でも素晴らしい保育をしている園はたくさんありますので言い訳にはなりません。

次に問題となるのは保育指針に示されているような「子ども一人一人の主体性を尊重し受容的で応答的なかわりを重視する」保育のプロセスの質を保つ仕組みや風土があったのかという問題です。保育の現場は子どもの姿を振り返り、対話し、高めあうような同僚性を高めるマネジメントなしには運営できないと思っています。

さらに子どもへの人権意識があったのかという問題があります。子どもたちにはさまざまなタイプの子どものいます。みんなと一緒に嫌だとか、すぐに手を出してしまう子。しかし、保育の専門性というのはその子どもたちの想いや行為の理由を肯定的にとらえることで安心感や信頼感を作り「良さ」を発揮できるようにすることだと思ふのです。

そして、最後に保育だけの問題ではない大きなものとして、「そして、最後に保育だけの問題ではない大きなものとして、今回の裾野市の件は、「いじめ」が成立する要素に似た部分があるのではないかと思います。子どもの世界でも大人の世界でも「いじめ」は後を絶ちません。こうした「いじめ」を見たとき、「それはいけないよ」と言えるかどうか。誰にも弱い心があって、「それはいけない」と言った自分が次のターゲットになるのでは？と不安になって、見て見ぬふりをしたり、いじめに加担する側になってしまう現実が、この世の中にたくさんあります。

そして、いじめは恒常化し、エスカレートし、いつしか抜け出せなくなっていく。主張が強かったり、声が大きかったりする相手ならなおさら、逆らうのに勇気が要ります。全国でいじめがなくならないのは、いじめる奴がもちろん悪いが、その周囲が同化していくことも要素として大きいことは皆さんも感じているのではないのでしょうか？

そうした同化は、カルチャーにじわりじわりと変化を生むからこそ、それがいつしか当たり前になり、罪の意識を感じなくなっていくのではないのでしょうか。

だからこそ、世の中から「いじめ」がなくならない（なくせない）のなら、今回のような不適切保育をなくすのは難しいとも言えるのではないのでしょうか。

それくらい深刻な問題です。これは決して、逮捕された保育者を擁護しているわけではありません。

なぜなら、今回逮捕された3名が、もともとそんな行為をする人間だったのかというと、ぼくは必ずしもそうではないように思うからです。というのも、そんな保育士ばかりが集まり、同じクラスを担当するなんていう偶然は、奇跡に近いからです。逆に、そんな人じゃなかったのに、何らかの要因や環境で、そういう関係性になってしまったことを改善しなければならぬと思うのです。

不適切な行為をした最初の一人は、もともとふさわしくない人間であったのかもしれないし、厳しい労働環境があったのかもしれません。母親が四六時中子どもとだけ向き合っていたらかわいいわが子でも叩いてしまうという事案のように、保育者だってゆとりが必要なのは事実です。

しかし、こうなる前にストップをかけるタイミングは必ずあったように思う。

外部の目に晒されることの少ない保育現場だからこそ、自浄作用がはたらく仕組みづくりや保育を外に開いていく仕掛けが必要になるのだと思います。今回のことを、決して他人事にはいけない。

保育業界の問題だけでなく、すべての業界でも同じことが起こりうる。

今回の事件は、ぼくたち大人に根本的な課題に向き合う問いを投げかけていると思うのです。

各クラスの聴こえる世界をお伝えします！

にこにこ



子どもたちが遊んでいると保育室内から様々な音が聞こえてきます。その中でも今回はベビーキューブで遊んでいる様子をお伝えしたいと思います。ベビーキューブを握ったまま何気なく腕を振ってみるとシャカシャカと音に気がつき目を丸くして驚いた表情を浮かべるお友だち。もう一度その音を聞いてみたくてまた腕を振ってみたり転がして何度もシャカシャカという音を聞こうとしていました。他のお友だちは保育士と一緒に高く積み上げ、積み上げることができると手を叩いてパチパチと拍手し喜ぶ姿が見られます。積み上げて終わりではなく積み上げたベビーキューブを全身を使ってダイナミックにガシャーン！と喜んで崩すのも楽しみのひとつです。他にも耳をすませてみると子どもたちが走る足音や笑い声などがたくさん聞こえてきます！これからも子どもたちから発せられる音を聞き、新たな子どもたちの姿を見つけていきたいです。



よちよち



遊びの中で子どもたちが電話に見立てるアイテムの1つがレンゲ。掬う部分を耳に当てながら「もしもし？」「はーい」等、お話しをしている姿をよく見かけます。大きさが丁度良いから見立てやすいのかなと思っていたのですが、ふと保育士もレンゲに耳を当てて話してみると…本物の電話のように音が響いておもしろい！！子どもたちはこの音の響きに気付いていたから掬う部分を耳に当て電話に見立てていたんだと納得しました。遊びを通して気付いた子どもたちに感じさせられました。また、何も話さずにレンゲに耳を当ててみると音がこもったようになり、これもまた子どもたちにとってはおもしろいのかなと思います。子どもたちの遊ぶ姿が無ければ私たち大人は気付くことができなかった音。今後も子どもたちの聞いている音に注目していきたいです！





すくすく

すくすく組では、『セラ』と言う玩具から生まれる音を発見した子がいました。セラのパーツを2つ組み合わせた中に一番小さいパーツを入れて振ると「カラカラ…」と箱の中で音を奏でていきます。振る度に音が鳴ることに気付くと耳の横で何度も横に揺らして楽しんでいました。次は中に入った小さいセラを取り出し人差し指で弾いて転がしています。その時に聞こえる音を聞いた他の子が、「なにしてるの」と不思議そうな表情を浮かべて興味を示していました。そして、二人で順番にセラをはじき、顔を見合わせて遊び始めていました。1個の玩具でなんとなく聞こえた音から遊びやコミュニケーションが広がっていく姿が見られるのが保育の面白さです。音の他にも子どもたちにとって様々な出会いや発見が出てくるのを保育士も一緒に楽しみながら、過ごしていきたいです！



異年齢

子ども達の『声』に耳を傾けてみました！

ブリコルームは自分で素材を選び、作る場所です。黙々と作る子が多い日があったり、アドバイスを求める子がいたり、共同制作が生まれたり、その日の部屋にいるメンバーによって色々な化学反応が起きます。

製作の好きなわくわく組のHくん。その日は忍者の図鑑を見て武器を作り始めました。最初は紙を丸めて作っていましたが、強度が弱くすぐに折れてしまいます。それを見た周りの子たちが「そうだ！じゃあ段ボールで作るのはどう？」「もっとセロハンテープをつけるのは？」などアイデアを出します。Hくんはアドバイスを活かして作りますが、中々形になりません。そこで困っている姿を見たSくんが「いきいきのYくんが武器作り名人だから教えてもらったら？」と言い、それを聞いた子どもたちは「いいね！」と満場一致。Yくんを呼んできて教えてもらうことにしました。他の遊びをしていましたが「俺、誰かが困っていると放っておけないからいいよ」と作り方を教えてくれました。こうして武器の作り方講座が始まり、Hくんは気に入った武器が完成しました。

子どもたち同士の声で遊びが深まっていくことを感じた出来事でした。一つひとつの作品にストーリーがあります。作品を持ち帰ることがありましたら、どこを楽しんで作ったのかなどの想いを聞いてみてくださいね。



給食室

また、新しい一年が始まりました。お休み中、みんな元気に過ごせたでしょうか・・・？
今年も、子どもたちにたくさんの「食体験」と「おいしい！」を届けられるよう、給食室職員一同頑張ります！

最近、食事が終わると、給食室のカウンターにちょこんと顔を出し、「おいしかったよ！」と声を掛けに来てくれる子がいます。また、先日は、すすくの先生が「給食の先生にいいって言いたい」と子どもたちが言っていたことを教えてくれました。

直接関われる時間は少ないですが、子どもたちの声を聞くと元気をもらえます！

今月は、恒例の七草粥がおやつで登場します。お正月のごちそう続きで疲れた胃をいたわってくれるという七草粥ですが、「春の七草」ご存じですか？

せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ
が、春の七草です。

すずなは「かぶ」、すずしろは「だいこん」のことです。それ以外の物も、意外と身近にあるものが多く、最近では七草をパックで売っているものをスーパーなどで見かけますが、公園や道端で見つけることもできるかも！帰り道にお子さんと探してみるのも楽しいかもしれません。



木育係

園庭と2階テラスに設置されている池にはメダカやオタマジャクシが住んでいますが、一方でそこは、子どもたちにとっても最高の水遊び場です。葉っぱを浮かべたり、土の中に入れてたり、、生き物にとっては過酷な生態系かもしれません。11月ころには水も濁り中には何が生息しているのかもわからなくなってきてしまいました。そんなビオトープ池の清掃を先日行いました。小雨混じりだったこともあり職員みんなレインコートを着ての肉体労働です。まずは水を抜く為に生き物たちバケツに移動させなければなりません。小さな網を使って掬おうとしてもメダカたちも必死に逃げ回ります。保育士たちも仕事ということを忘れたかのように生き物を捕まえたり、見たこともないような生物を見つけるたびにワーワーキャーキャー大騒ぎ。

その様子を見ていた子どもたちは当然お手伝いいたくなってきて、一緒に生き物探しや綺麗な水を運ぶという保育が始まりました。池の中から見つかった様々な生き物だけでなく、なぜか沈んでいたドングリを発見すると特別な宝物を見つけた気分になったのかもしれません。



今月の行事

- | | |
|--------|------------|
| 4日(水) | 仕事始め |
| 9日(月) | 成人の日 |
| 14日(土) | 布団乾燥 |
| 18日(水) | 餅つき |
| 19日(木) | 久保先生のわらべうた |
| 21日(土) | よちよち会 |